

はじめに

夏まぎ冬どりのキャベツ栽培において、近年の天候変化は厳しい影響を及ぼしています。特に夏場の高温と干ばつ、長びく残暑による初期生育の停滞で、小玉気味になることや、在圃性が悪くなってしまうことが増えています。また、豪雨の増加により病害の発生も増え、以前よりも栽培しづらくなっています。今回は、12〜1月収穫に向き、生育が旺盛で小玉になりにくく、栽培しやすい春系品種「さざなみ」を紹介いたします。

特性

- 12〜1月収穫に向く春系品種です。
- 生育が旺盛で栽培しやすいです。また、吸肥力に優れるので、追肥の効果が出やすく、生育遅延からの回復が早いです。玉も肥大力に優れるので小玉になりにくいです。
- 玉は1.3kg程度の甲高球で、表面のしわが強く残ります。球色も明るい緑色で光沢が強く、春系品種らしいおいしそうな外観となります。
- 草姿は立性で、玉が直接霜や風の影響を受けにくく、品質が劣化するこ



New!

新品種のご紹介

カネコ種苗(株)
くにさだ育種農場

品田 智隆

生育が旺盛で、
玉が大きくなりやすい春系品種

(カネコ交配)
キャベツ

さざなみ (KAK-828)



- とが少ないです。またアントシアニンの発生も遅い品種です。
- 黒腐病に比較的強く、安心して栽培が可能です。萎黄病にはAタイプの抵抗性を有します。

栽培ポイント

- 初期生育でつまずくと、結球時の裂皮や在圃性の低下を引き起こしやすくなります。造成地や赤土などの地力の低い土地では、元肥を通常栽培よりも1〜2割程度増やすことで生育が安定しやすくなります。
- やや多肥を好む品種です。本来の特性を発揮するためにも、肥料切れには注

作型表

●: 播種 ×: 定植 ■: 収穫

	7	8	9	10	11	12	1
中間地	●	×			■		
		●	×			■	
暖地		●	×			■	
			●	×			■

食味良好

葉肉は少し厚めですが、組織が硬くなく、りくいたのでサクサクとした食感です。厚めの葉肉は水分を多く含み、パサパサした食感になりやすいです。冬の寒さの中で、甘味が増すおいしいキャベツです。

- 霜が降りる日が続くと玉表面が傷むことがありますので、1月中旬以降の収穫は無霜地帯に限りません。
- 菌核病対策として、年内に予防効果の高い殺菌剤の散布を行います。